



## 特集：いせきんぐ宗像シンポジウム 2014

# 邪馬台国とムナカタ国

## —「ムナカタ国」はあったか—

本特集は、2014年9月7日、宗像ユリックスハーモニーホールにおいて開催された「いせきんぐ宗像シンポジウム」での講演並びにパネルディスカッション、配布資料等の記録をまとめたものである（監修：海の道むなかた館）。なお、パンフレットには、講演者として明治大学名誉教授の大塚初重先生のお名前が掲載されている。しかし、大塚先生が体調を崩されたことから、大塚先生のご紹介により、急遽、明治大学教授の石川日出志先生に特別講演をご担当頂いた。上記経緯について予めご承知おき頂きたい。そのほか、同シンポジウムで発表された「田熊石畑遺跡の調査報告（白木英敏氏）」の記録については、むなかた電子博物館紀要6号にて公開しているので、合わせて参照されたい。

むなかた電子博物館紀要委員会

序文 海の道むなかた館長 西谷 正 .....	3
参考資料：パンフレット・追加配布資料 .....	4
講演録：特別講演「邪馬台国を再考する」 明治大学文学部 教授 石川 日出志 .....	16
講演録：基調講演「青銅器を帯びたムナカタの弥生人」 愛媛大学ミュージアム 准教授 吉田 広 .....	24
講演録：基調講演「邪馬台国九州説とムナカタ国」 旭学園 理事長 高島 忠平 .....	67
パネルディスカッション .....	74

宗像市が誇る文化財の一つ、田熊石畑遺跡は、釣川中流域左岸の標高 12m 付近の微高地に営まれた弥生時代中期前半（B.C.2 世紀ごろ）の集落の遺跡です。

宗像市教育委員会では、開発工事の対象となった田熊石畑遺跡に対して、平成 20 年（2008）に、事前に発掘調査を行ったところ、後述しますようにきわめて重要な遺跡であることが分かりました。その際、遺跡の保存を要望する市民運動も起こり、また、関係者の尽力もあって、幸いにも遺跡は保存されることになりました。その後、平成 22 年 2 月 22 日付の官報告示をもって、国の史跡に指定されました。その理由として、発掘した 6 基すべての木棺墓から青銅製武器が検出され、北部九州における弥生時代の集落や墓制のあり方を知る上できわめて重要であるというものでした。さらに、それらの青銅器のほか装身具類は、平成 26 年に国の重要文化財の指定を受けました。

一方、保存された、田熊石畑遺跡に対して、その整備と活用が課題となりましたが、整備事業は順調に進み、平成 27 年 4 月に、宗像市田熊石畑遺跡歴史公園、愛称「いせきんぐ宗像」としてオープンしました。

それに先がけて平成 26 年 9 月 7 日には、「いせきんぐ宗像シンポジウム 2014」が開催されました。そこでは、15 点もの青銅器を出土した方形の区画墓が、弥生時代中期前半における北部九州でも有数の有力者集団の首長墓であることから、同じく中期後半の伊都国やその王墓に照らして、宗像地域における国と王の問題が浮かび上がって来ました。

そこで「魏志倭人伝」には登場しませんが、宗像地域における国や王の存在の可能性を探るとともに、田熊石畑遺跡の重要性を改めて認識し、また、「いせきんぐ宗像」を市内外に情報発進するために、「邪馬台国とムナカタ国—「ムナカタ国」はあったか—」というテーマでシンポジウムが開催されたのでした。本特集は、そのときの講演ならびにパネルディスカッションと、配布資料等の全記録を集録しています。

この機会にまた改めて、弥生時代に続く古墳時代のこととして、『古事記』・『日本書紀』にそれぞれ登場する胸形君・胸肩君との関係など、宗像人のルーツや宗像地域の古代史ロマンに夢を馳せていただけましたら幸いです。